

I -②(1) 年長・小2の交流 実践と効果(令和元年度)

本学園では、幼稚園の年長と2年生が1年間を通して交流を行っている。野菜パーティー、おもちゃ遊び等、様々な活動を通して、園児は小学校の「人、もの、こと」への憧れをもって楽しみを膨らませていき、2年生は自己を発揮しながら園児に対して思いやりの心をもって活動に取り組み、自分の成長を自覚していくことが主なねらいである。

2年生はそれまでに1年間の小学校生活を経験している。活動に対してある程度の見通しをもつことができるので、自分の思いや経験を生かしながら幼児たちと関わるができるだろう。子供たちの実態と活動のねらいに合わせて、どの学年とどんな交流をするのかを考えていく必要がある。

活動の内容は、始めから教師が完璧な計画を立てるのではなく、幼児や児童の思いを大切にしながら決めていった。小学校教員と幼稚園教員がそれぞれの子供の様子を伝え合う中で、子供たちの「やってみたい」が実現できるように相談して、計画を進めていった。本稿ではその実践の様子と効果を報告する。

「一緒に遊んで仲良くなろう」(5, 6月)

2年生の生活科で学校周辺を町探検した際に、子供たちが「幼稚園の先生に会いたい」「幼稚園の友達と遊びたい」という思いをもったことをきっかけに、2年生が幼稚園へ行く活動を計画した。幼稚園では、前日に2年生が来ることを予告して園児のワクワク感を高めておいたことで、当日は門のところまでやって来て、2年生たちを出迎える幼児たちの姿があった。事前に細かいことを決めず、十分に遊びを楽しませることで、子供たちは自然に関わりを深めることができた。



私、ここからシューってすべるよ。
お兄ちゃん、見て見て！

僕もやってみたいな。



すべり台って、こんなに
小さかったかな？

お兄ちゃんたちには負けられないぞ。先
生は、僕たちのチームに入ってね。
(小学校への憧れの芽生え)



幼稚園の子たちも、なかなか上手だな。

一緒にサッカーを楽しんだ子供たちから「次は小学校の広い運動場でやろう！」という声があり、次回は園児が小学校に来て一緒に遊ぼうということになった。

2年生は園児が来てくれることに期待を膨らませ、小学校でどんな遊びができるかを相談した。虫取り、鬼ごっこ、遊具遊び等のいくつかの遊びを考え、事前にどんな遊びができるか幼稚園に伝えておいたことで、園児は虫かごを準備する等、活動のワクワク感をもって小学校を訪れることができた。

こんなふうにしたら、幼稚園の子たちは楽しいかな？



小学校には、シーソーがあるんだな。これ、楽しい！

こうやって、とるんだよ。



ザリガニがいっぱいいるよ！この池、楽しいな！



【出発前】池で何がとれるかな。あみとかごを持って、よし行くぞ！



【活動後】まだ帰りたくないよ。もっとザリガニをとりたいよ。

2年生は以前から野菜が収穫できたら青組さんと一緒に野菜パーティーを開きたいという思いをもっていたので、活動の終わりには、2年生が育てている夏野菜を園児たちに紹介した。その時の幼児たちの「おいしそう」「食べたいな」等の言葉は、野菜のお世話に対するさらなる意欲につながったと思う。お互いに次に会うことへの期待を膨らませて、活動を終わることができた。

キュウリは好き？大きく育ったら、野菜パーティーで一緒に食べようね。



小学校の畑って、広いな…。

うん。楽しみだな！幼稚園でもキュウリを作っているんだよ。

楽しかったよ。次は野菜パーティーで会おうね！



野菜のお世話を頑張らなくっちゃ！

幼小教員合同の振り返りから

- ⑧ 先生と一緒に楽しむことは大切。楽しそうな先生の姿を見て、子供たちは安心する。
- ⑨ 遊びを自由に選択できたことがよかった。ペアを作って遊ぶ方法もあるが、慣れていない子との関わりに抵抗感をもつ子もいる。ある程度自由度をもたせた計画にしたことで、子供たちの「好き」という思いから活動がうまれていた。
- ⑩ 指示を出さなくても、楽しそうだなと思えば子供たちは自然と遊びに参加し始める。

「育てた野菜と一緒に食べよう」(7月)

幼稚園、小学校、それぞれで収穫した野菜で作った料理を持ち寄り、野菜パーティをした。園児はお皿の代わりにお弁当箱を持参しており、自分からそのお弁当箱にピザ等を取り分けてあげる2年生の姿も見られた。中には野菜嫌いの子供もいたが、今回はおいしく食べられたようで、自分たちが育てた野菜、自分たちが作った料理を笑顔で食べてくれたことに、幼児も2年生も大満足のパーティーになった。交流の回数を重ねてくると、お互いの名前を覚えて呼び合う子供たちも増えてきた。

【準備をする幼児】



私たちの作った野菜もパーティーに持って行こう。きっと喜んでくれるよ！

【準備をする2年生】



トマトとピーマンをのせるよ。青組さん、喜んでくれるかな？

みんなで食べるから、100個くらいピザを焼かなくちゃ！

【一緒に野菜パーティー】

頑張って野菜を育ててよかったな。

おいしいよ。野菜でピザも作れるんだ。



お兄ちゃん、たくさん食べるな。私ももっと食べたいな。

キュウリの漬け物、おかわり！

私たちの漬け物、お姉ちゃんがおいしいって言ってくれたよ！



幼小教員合同の振り返りから

- ④ 幼児は最初は緊張気味だったが、少しずつ慣れてきて、最後はリラックスして楽しんでいた。おかわりしたいという思いを2年生が気付いてくれて、おかわりできたことをとても喜んでいて、2年生と一緒に楽しい時間を過ごして、「小学校って、こんな楽しいことをするんだな」という思いをもったのではないかな。
- ④ 昨年度は、幼児と2年生が、小学校の学級園で一緒に野菜を育てた。幼稚園の畑に水をあげている時に、幼教員が「小学校の野菜は大きくなったかな」とつぶやくと、園児から「水をあげに行こう」という反応が自然に生まれてきた。子供たちの実態に合わせて、一緒に作る、それぞれで作ったものを交流する等、いろいろな工夫ができると思う。
- ④ 幼児と一緒に野菜パーティーをするという目標が、野菜のお世話の意欲に繋がっていたと思う。
- ④ 教員は「～しましょう」と指示するのではなく、子供たちの思いから活動が生まれてくるように仕掛けることが大切である。

「手作りおもちゃでいっしょに遊ぼう」(10月)

輪ゴム、紙皿等の身近にある物を使って、2年生が動くおもちゃを作った。学級内でゲーム大会を楽しんだ2年生たちからは、次はもっとおもちゃを工夫して楽しくしたい、次は誰かを招待して遊びたいという思いが生まれてきた。そこで、学級内のゲーム大会での反省を基に、もっと楽しくなるようにおもちゃを作り替えたり、ゲームのルールを工夫したりして、幼児と一緒に楽しむための準備を進めていった。

【前日】



私は、〇〇ゲームに行ってみたいな。

一人一人が招待状をもらった後、幼稚園では、その招待状を改めてじっくり見る時間を持ち、2年生のおもちゃで遊ぶことへのワクワク感を高めておいた。

楽しそうなゲームがいろいろあるな。小学校へ行って、またお兄ちゃんやお姉ちゃんと遊びたいな。

招待状を持って来たよ。僕たちがおもちゃを作ったから、小学校に遊びに来てね！

遊び方を工夫してよかったな。

【当日】

ペットボトルをしっかりとって来てね！

僕たちもお兄ちゃんたちみたいなおもちゃを作りたいな。先生、材料がほしいよ。
(幼稚園での広がり)



【幼稚園に帰って】



紙コップで、こんな楽しいおもちゃができるんだね。



どうやって飛ばすの？

幼小教員合同の振り返りから

- ㊥ 幼児と2年生が教えてもらう、教えるという関係だけでなく、一緒にするという様子が見られるようになってきた。
- ㊦ 野球のゲームが楽しかったようで、翌日から幼稚園でも野球が流行り始めた。自分でバットを作りたくて、材料を求めてくる幼児もいた。小学校での遊びを、幼稚園の遊びに活かすことができた。
- ㊧ 説明の時間はできるだけ短くして、活動の時間をたっぷりとるようにした。2年生は幼児たちの様子を見て臨機応変にルール等を変更しながら進めることができた。

「小学生になったら」(2月)

小学校入学に向けて、2月4日から6日までの3日間、幼児が小学校体験を行った。小学校のお兄さんやお姉さんと一緒に活動することで小学校生活への期待を膨らませたり、小学校の先生と一緒に活動したり給食を体験したりすることで不安を解消したりすることがねらいである。(小学校体験での2年生との交流についての詳細は「I-②(1)年長児の小学校体験の実践と効果」を参照)

◆成果と課題

〈意欲の向上〉

- ⑧ 子供の思いに沿った計画をしたことで、子供の意欲は自然に高まっていった。
- ⑧ 幼稚園、小学校の中だけでは相手が限られてくるが、お互いに交流が刺激となり、作りたい、上手になりたい、勝負したい等という意欲が高まったと思う。
- ⑧ 2月末に幼稚園の畑を耕していた時に、年長の幼児が「この畑は赤組に譲ってあげる。だって、僕らは小学校に学級園があるから」と話していた。また、小学校体験では、日頃はおとなしい幼児たちが、自分から「2階に行ってもいい？」と聞いてきた。交流を通して、幼児たちは小学校の物的環境も分かっており、小学校へ行くことを楽しみしている様子がうかがえた。



【幼小合同研修会の様子】

〈継続することで〉

- ⑧ どの交流でも、幼児たちは最初は緊張した様子で行くが、帰ってくる時には笑顔になっている。2年生との交流を楽しみしており、全く嫌がる様子がなかった。
- ⑧ 活動を重ねるうちに、子供たちは互いの名前を覚えて呼び合うようになってきた。幼児が入学した時に、2年生はより親しみをもって迎えることができるであろうし、幼児にとっても自分のことを知っている上級生がいることは、安心感につながるだろう。

〈課題に対して〉

- ⑧ 幼児は30名、2年生は2クラスで69名。1クラスずつ関わるのか、学年団として関わるのか、幼児を15名ずつに分けて関わるのか。2年生の2クラスにできるだけ平等に関わりをもたせたいが、今年度の野菜パーティの時のように幼児を2グループに分けるという方法は、日常との違いによって不安を抱く幼児もいる。子供たちの思いに寄り添いながら、よりよい方法を考えていきたい。幼児と2年生の個の関係を密にするために、基本となるペアやグループを作っておくのもよいかと思う。活動内容やねらいによって、自由に活動する時とペアやグループで活動する時とを使い分けるとよい。

最後に…

今回で、年長と小2の年間交流は3年目となる。幼小で効果や代案を語り合いながら、だんだんとよりよいものに変わってきた。連携の第一歩は、幼稚園教員と小学校教員との関係作りであると感じた。互いの学びを知り、どこで交流をもてそうなのか、しっかり話し合うことが重要である。次年度も幼小教員で話し合い、幼小の子供たちにとって意義ある活動にしていきたい。そして、附属学園での幼小連携の成果を公立校へ発信していきたいと考えている。